

ハリー・ポッターと炎のゴブレット

2005(平成17)年11月27日鑑賞(梅田ピカデリー)

★★★



第1章

見逃した人は必読!

監督=マイク・ニューウェル/製作=デイビッド・ヘイマン/出演=ダニエル・ラドクリフ
/ルパート・グリント/エマ・ワトソン/スタニスラフ・アイエネフスキー/ロバート・パ
ティンソン/クレマンس・ポエジー/ブレンダン・グリーソン/マイケル・ガンボン/マギ
ー・スミス/アラン・リックマン (ワーナー・ブラザーズ映画配給/2005年アメリカ映画/
157分)

……ご存知、『ハリー・ポッター』シリーズの第4作目。主人公たち3人は同じだが、今回は三大魔法学校の対抗試合をめぐる、ちょっと先輩格の他校の生徒たちも登場……。そのうえ「闇の防衛術の新任教授」ムーディが登場するとともに「悪の権化」ヴォルデモートが遂に登場！ そのため(?)例によって話はややこしい限り……。主人公たちももう立派な大人になったし、一応物語のケリもついたし、もうそろそろこのシリーズもおしまいにしては……。でも観客はいっぱいになっていたから、まだまだやめられない……?

テーマは3校の対抗戦だが……?

この映画のテーマは、ハリー・ポッター(ダニエル・ラドクリフ)の所属するホグワーツ魔法魔術学校と今回新たに登場するダームストラング学院及びボーバトン魔法アカデミーとの三大魔法学校の対抗試合。

しかし、その対抗試合には大きな危険が伴うために、100年以上も開催が見送られてきたとのこと。そしてその出場選手は、「炎のゴブレット」によって選ばれた3人によって争われるとのこと。しかし、日本人の私にはこの3校対抗試合のシステムがさっぱりわからないため、映画が始まった当初から何となく違和感が……?

ルール不明もよくないのでは……？

試合は、今回の3校対抗戦を主催するホグワーツ魔法魔術学校の校長であるアルバス・ダンブルドア（マイケル・ガンボン）から一定のテーマが与えられ、出場選手がそれに挑むというもの。しかし、そもそも「4種類の異なるドラゴンからそれぞれ金の卵を奪ってくる」という第一関門からして、ハリー・ポッターの活躍ぶりはスクリーン上に表現されるものの、あとの3人の闘う姿は全く見せてくれない。これではどんなルールでどう闘っているのかさっぱりわからないが、それはよろしくないのでは……？

なぜ、出場者が4人に……？

3校対抗戦だから、「炎のゴブレット」が選出する出場者は当然3人のはず。そして、その3人の代表者はダームストラング学院からビクトール・クラム（スタニスラフ・アイエネフスキー）が、ポーバトン魔法アカデミーからフラー・デラクール（クレマンヌ・ポエジー）が、そしてホグワーツ魔法魔術学校からはセドリック・ディゴリー（ロバート・パティンソン）が選ばれた。この3人はみんな17歳以上で、自他共に認める魔法の秀才だから順当なところ……。

ところが、「炎のゴブレット」はその後突然1枚の紙を吹きあげ、14歳のハリーを指名したから、アルバス校長もこれにはビックリ。ハリーは辞退しようとしたがそれもままならず……。そのうえ親友のロン・ウィーズリー（ルパート・グリンツ）からは、「1人、抜けがけをしたのでは？」と勘ぐられ友情にも大きなヒビが……。そんな中、ハリーは強力な3人の先輩たちに混じって競技に参加することになったが……。本来3人による3校対抗戦になぜハリーが追加して選ばれ、参加することになったのか、実はそれがこの映画のホントのテーマ……？

大舞踏会に注目

今までの『ハリー・ポッター』シリーズには恋愛模様は全くなかったが、この第4作目になるとなぜか突然その色彩が濃くなってくる。それは、この映画が3校対抗戦の前に開かれる豪華な大舞踏会に大きなウエイトを置いたため。3校

の教授たち大人はいずれも英国の紳士淑女だから、ダンスはお手のもの……？

しかし、生徒たちはそうはいかない……？

そこで、それを教えるのがマクゴナガル先生（マギー・スミス）だが、にわか仕込みのくせに生徒たちはヤケに飲み込みが早く、舞踏会は大きな盛り上がり……。あくまで踊りのパートナーになる男性からの誘いを待つのが英国淑女だから、男も大変だが、女も大変……？ そこでみごとに変身したハーマイオニー・グレンジャー（エマ・ワトソン）の美しさに注目……。

恋愛模様は中途半端……？

大舞踏会を契機として展開される恋愛模様の第1は、ハーマイオニーをめぐるロンたち男性陣のさやあて……？ 第2は、当然色気づいた年ごろとなっているハリーやロンが示す行動。そして第3は、何と hogwarts 魔法魔術学校のルビウス・ハグリッド先生（ロビー・コルトレン）とボーバトン魔法アカデミーからやって来た長身のマダム・マクシーム（フランシス・デ・ラ・トゥーア）との恋愛模様……？

その他、この映画は大舞踏会をきっかけとして生まれかけたいくつかの恋愛模様を見せつけるものの、そのいずれも中途半端でモノになるものはなし！ 恋愛模様はこの映画のテーマではないのだからそれも当然かもしれないが、これではあまりにも中途半端では……？

ワケのわからない「対決」には少しウンザリ……？

第一関門、第二関門までは与えられた課題が具体的だから理解できるが、第三関門は目標は明確であっても、そこに至るまでにどんな問題点があり、どのように対処すればそれをクリアーできるのかが全く示されていない。したがって、それにチャレンジするハリーたちはもちろん、スクリーンを観ている私たち観客もワケがわからないまま……。そんな中、この映画で大きな役割を果たす闇の魔法使い捕獲人である新任教授のマッド・アイ・ムーディ（ブレンダン・グリーンソン）の真の姿が明らかになるとともに、ついに「悪の権化」ヴォルデモート卿（レイフ・ファインズ）が姿を現わし、ハリーと対決することに……。そしてそ

の勝敗の行方は……？ となるのだが、何しろそのプロセスがエラくややこしいため、なかなかワケがわからず少しウンザリ……？

いい加減にシリーズを終えたら……

主役のハリー・ポッターはこの映画では14歳という設定だが、第1作から一貫してその役をやっているダニエル・ラドクリフ君は既に16歳。したがって、もはや少年というよりは立派な大人の風格が……。

今回の3校の対抗戦という物語が原作に沿ったものかどうかは知らないし、無理をして物語をつくろうと思えばいくらでも続編をつくることはできるだろうが、この第4作で一応ハリー・ポッターとその父親を殺した悪の権化ヴォルデモート卿との対決も終えたことだし、何よりもハリーはもう大人になったのだから、もういい加減にこの『ハリー・ポッター』シリーズは終えたら……。

もっとも、公開翌日の日曜日の夕方に私が行った時、観客席は満席となっていたから、まだまだ『ハリー・ポッター』人気は健在……？ だとすると営業上の観点から、製作会社としては打ち切りはムリ……？

2005(平成17)年11月28日記

ミニコラム

さすがイギリスはシェイクスピアの国……？

3000年の歴史を誇る中国には、『史記』などの歴史書や『三国志演義』『水滸伝』などの文学書がたくさんある。他方、エジプト文明や黄河文明に大きく出遅れたイギリスが誇るのは、近世への扉を最初に開けたことと、シェイクスピアをはじめとする近代文学の数々。アメリカは、『スパイダーマン』『バットマン』『バイオハザード』『トゥームレイダー』など低俗な(?)

アメリカンコミックが大はやりだが、イギリスでシリーズ化される映画は、『指輪物語』『ハリー・ポッター』『ナルニア国物語』『チョコレート工場の秘密』など、さすが質が高い……？ イギリスには他に『シャーロックホームズ』や『怪盗ルパン』など大人も子供も楽しめる作品がいっぱい。さすがイギリスはシェイクスピアの国……？

2006(平成18)年4月20日記